



けやき会通信



インスリンの保管方法 薬剤師：大塚 志織



だんだんと暖かい日も増え、春を感じることも増えてきました。これから夏に向けて気温が上がっていく中、インスリンの保管方法について一度見直してみませんか？

1. 未使用のインスリン

冷蔵庫（2～8℃）で保管しましょう。インスリンは熱に弱く、37度以上の高温にさらされると効果が落ちてしまうと言われています。インスリンはタンパク質で出来ているので、高温にさらされると変性し血糖を下げる効果を失ってしまいます。熱変性を起こしても外観上はわかりにくい場合があるので注意が必要です。

また寒さにも弱く、凍ってしまっても変性してしまいますので、冷蔵庫で保管する場合は冷却風の当たる場所は避け、ドアポケット等インスリンが凍らないような場所が良いでしょう。熱変性を起こしてしまった物や凍ってしまった物は安全に使用できるか不明なのでそのものは使わず、適温で保管された新しい物を使うようにしましょう。

2. 使用中のインスリン

開封後の物は室温（1～30℃）保存で大丈夫です。直射日光が当たらないような場所で保管して下さい。ただ室温といっても最近の夏場は30℃を超えてしまうことが優にあります。冷房の効いた部屋などで保管し、高温の部屋で保管することは避けて下さい。また車内にも注意が必要です。締め切った空間では温度が上昇しやすく、思っている以上に高温になっていることがあります。車の中にインスリンを放置しないよう気をつけて下さい。

3. インスリンの使用期限

インスリンにも使用期限があります。インスリンの箱やペン本体にも期限が明記されています。期限を確認してから使用しましょう。

また使い始めたインスリンには使用可能日数が設定されています。多くのものは4週間ですが、例外もあります（ランタスXRは6週間、トレスーバは8週間使用可能等）。インスリンの種類によっても異なってきますので先生や薬剤師等に使用可能日数を確認して下さい。1回に打つ単位が少ないと使用可能日数以内にインスリンを使い切ることが出来ない場合もあります。それ以上の日数が過ぎた物は安全に使えるか・血糖を下げる効果がきちんとあるか保障されていないので、そのものは廃棄し、新しい物に交換するようにして下さい。

GLP-1受容体作動薬もインスリンと同じようにタンパク質で出来ているので適切な温度管理が必要です。正しく保管し、適切な注射が行えるようにして下さいね。

